

令和4年度 第1回国産材安定供給体制の構築に向けた
九州地区需給情報連絡協議会 議事録

- 1 日時:令和4年6月17日(金)13:30~15:30
- 2 場所:ウェブ会議 (Zoom)
- 3 出席者:別紙のとおり
- 4 議事次第及び配布資料:別紙のとおり
- 5 概要

(1) 冒頭挨拶

○九州地区需給情報連絡協議会 田中会長 (株)九州木材市場 代表取締役)
令和4年度九州地区重要情報連絡協議会の会長を仰せつかりました田中と申します。株式会社九州木材市場の代表取締役をしております。本日はお忙しいなか、遠藤先生をはじめ、多くの方々にご参加頂きました。川中・川下の皆様と会話する機会がほとんどありませんので、この時間を大事にさせていただきたいと思っております。今の木材業界や建築業界は、コロナショック・ウッドショック・ロシアショックと色々なショックに急激な円安、原油高であらゆる資材の不足、人材不足、このどれか一つをとっても大変なことで、本当に予測不可能な状況となっております。先程も申し上げましたが、川上・川中・川下の皆様と情報交換や情報共有が本当に大事になってきていると思っております。最後になりますが、今回事務局を引き継ぎまして今年度務めさせていただきます。初めてですので、色々不手際や至らない点があると思っておりますが、今後、修正していきたいと思っておりますので何卒よろしくお願い致します。

以上で挨拶とさせていただきます。本日は、よろしくお願いいたします。

(2) 議事

○NPO法人 活木活木 (いきいき) 森ネットワーク 遠藤理事長 (以下、座長)
皆様こんにちは 議長を仰せつかりました NPO法人活木活木ネットワーク理事長の遠藤日雄と申します。どうぞ今日は3時半までの長丁場になりますけれども、よろしくお願い致します。本日は今年度、最初の九州地区受給情報連絡協議会となりました。出席者のご紹介につきましては、添付の名簿を持って代えさせていただきます。私の記憶ではこれだけ多くの方々に参加される連絡協議会は、初めてじゃないかと思っております。それだけに今回のウッドショックの深刻さ、あるいはこれからどうなっていくのかについて、皆様方がかなり大きな関心を持っておられる証拠だろうと思っております。今日は時間が許す限り、色々なご意見を共有しながら九州地区が今後どうしていけばいいのかについて、情報を共有して参りたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

それでは議事に移ります。まず輸入や国産材の需給状況につきまして、前回は12月から1月にかけての状況を共有しましたが、他の業種とともに合板不足の影響があったという状況だったと思っております。

2月にはご存知のようにロシアのウクライナ侵攻により、木材が輸出入禁止になるなどの状況で今後の木材需給動向が注目される所です。現在の状況について関連資料を含めて、まずは林野庁から資料のご説明をお願いいたします。資料1から資料4につきまして、林野庁の永島課長補佐、よろしくお願い致します。

○林野庁 永島 課長補佐
資料1～4説明

○遠藤 座長

説明ありがとうございます。ご苦労様でございました。今の林野庁の説明につきまして、何かご質問がありますでしょうか。

今の林野庁のご説明を私なりにまとめてみますと、まず一つは、輸入につきましては昨年後半から回復傾向となって現在も大きな変動はないように思われます。けれども、2月のロシアのウクライナ侵攻の影響で一部の木材の輸出入禁止によって、今後国内の木材需給動向に影響が出る可能性があり、引き続き注意すべき状況にあると言う事、第2点目は国内においては輸入材、国産材ともに価格は高止まりをしており、構造用合板については価格上昇が続いているという状況です。原木入荷量についても長期的に増加傾向です。

そういったことを念頭に入れながら、次にまずは全国的な情報を九州地区との違いも含めて構成員の皆様方から現状について、あるいは今後の見通しについてご意見をお聞きしたいと思います。

川上、川中から川下それぞれの情報提供後に議論や意見交換の時間を設けたいと思っています。

これからは座長から指名して参ります。

まずは川下の建築業者におかれましては、前回開催時の冬の時点と比べてどのような変化があったのか。どんな部材が手に入るようになって、どんな部材が足りないのか、合板の価格状況はどうかという話に加えまして、新規の受注状況や住宅への価格の転嫁状況、木材住宅の今後の見通し・見込み、また特に輸入材から国産材への代替等の状況について簡潔に情報提供をお願いします。限られた時間で申し訳ありませんが、お一人様5分程度でお願い致します。まずは、日本木造住宅産業協会からお願いします。

○一般社団法人 日本木造住宅産業協会 九州支部 清水 事務局長

需給量はウッドショック後、回復傾向にあります。ただし、価格については高止まりしている状況です。木材製品価格が上がることで、住宅価格に価格転嫁はしたくないのですが、もうせざるを得ない状況になっている会員も多いのが現状です。

現在、ニュースでも木材以外も値上げという話題が続いていますが、今後、住宅価格に関しても値上げが想定される状況です。それも坪1万～2万というようなレベルではなくて、中には坪10万ぐらい上げないと対応できないというような会員さんもいらっしゃると思います。私ども川下としては、そういった状況になろうかと思えます。

○遠藤 座長

日本住宅新聞に掲載の全建総連が行ったアンケートと今の話はよく合致していると思います。一年以上経った今でも、やはり住宅についてはこのウッドショックはかなり厳しいものがあると理解してよろしいでしょうか。

○一般社団法人 日本木造住宅産業協会 九州支部 清水 事務局長

そうです。ウッドショックで影響を受けて上がってから厳しい状況です。さらにロシア・ウクライナ戦争の問題・円安の問題が、複合的に絡んで製品価格に影響し最終的に住宅価格が上がって、下がる要素が見当たらないということです。

ウッドショックのみならず、アルミの価格上昇であるとか、それ以外の設備部材といったものの価格上昇の影響を受け、上海ロックダウンで設備関係の代替品手配

が必要というような影響も受けています。さらに、原油価格の高騰で運送費等の値上げもあり、今後、全て複合的に影響してくるというような状況かと思えます。

○遠藤 座長

それでは、次に JBN・全国工務店協会さん、情報提供お願い致します。

○一般社団法人 JBN・全国工務店協会 新町 監事

私たちは生産では無くて消費者と一緒になんです。ウッドショックで、今、木住協さんの言われた通りです。今の若い人は木材に限らず建材の高騰で見積を出しても予算オーバーでローンが組めず契約が成り立たない状況も出てきています。私も2件ありました。私は、木材の価格が上がるのに反対はしません。伐採して山が育つのに40～50年掛かる事を消費者に納得してもらい、全国一斉に価格を上げ、山に還元し植林を促すのなら。私たちは木が無いと仕事が出来ません。

突然のウッドショックということで戸惑っています。私たちの仲間も宮崎県は所得が低いので新築は減ってくるのではないかと。そうは言っても建売等は建っています、所得の低い人は建売かマンションかに向かってしまうのではと心配しています。

今の山の伐採状況を見ると怖いですね。植林・造林も議題に上がらないと災害にも繋がるのでは。

○遠藤 座長

ありがとうございます。かなり厳しい状況があることが今のご報告であったと思います。全建総連のプレカットについては、輸入の見通しを持っている方は、情報を少しお話いただけますか。

今のお二方のご意見を私なりに整理しますと住宅器機等の納期遅れですが、木材だけに限らず色々な住宅部材の納期遅れが発生しておりますけども、これは施主への価格転換においても出来るか、出来ないのかは大きな課題があります。この調整が必要な状況が継続しています。

無垢材の調達においては合板不足や価格情報の影響が続いていった状況になっています。それでは、このご発言内容についてご意見やご質問があればお願いいたします。

輸入材から国産材の転換についてのお考えなども是非頂きたいと思えます。

○林野庁 永島 課長補佐

お話を伺うと、木材というよりも他の住宅設備の調達が難しいとのお話ですが木材についていえば部材によっては入手がしづらいつか、そういう状況があれば教えて欲しいです。

他地域では、合板が入手しづらいという話も聞きましたが、最近の状況はどうか教えていただければと思います。お願いします。

○一般社団法人 JBN・全国工務店協会 新町 監事

私たちが利用するのは直材で、どんな寸法でも木材自体は注文したらすぐ入荷出来る状況ですが、高止まりです。宮崎は地元の地域材なのに、なぜ価格が上がるのか疑問はありますが、仕方がないのかなと思っています。

○原田木材株式会社 原田 代表取締役社長

いろんな部材は、代替えによって不足感はないというように思っています。ただ値段がある程度高止まりで大変なことになっているのかなというように思っております。当社では、かなり代替えをしまして羽柄材含めて国産材利用率が80%超えてきて

ました。ですからその分、外材関係、ヨーロッパの集成材、米材関係これの取扱量が少し下がってきていますが、ヨーロッパの状況は、ちょっと潮目が変わってきており、価格が下がってくるのかなというように思っています。ヨーロッパ全域で住宅着工があまり良くないということ、アメリカに送っていたツーバイフォーサイズの輸出が止まったと、ウクライナ侵攻でベラルーシ、ロシアからの木材輸入が止まって原材料不足に至ると予想されておりましたが、ウクライナから比較的順調に材が入って来ているということで、原材料不足に加えて無理して購入した材とダブル在庫になっているという状況と聞いております。

ヨーロッパのサードクォーターのオファーが先週末ぐらいから始まりましたが、どんどん値段が下がってきています。フォースクォーターのことまで考えれば10万円を切ってくるのではないかと、当社としては予想しております。ただ、今プレカット工場自体が高値掴みの在庫がかなりあるものですから、この処理をどうするかタイムラグで来年以降にヨーロッパ材が下がり10万円割れをしてくると国産材がどうなのかということが、今後の問題になってくるのかなというように思っています

○遠藤 座長

私も原田社長のご意見に全く賛成です。東京埠頭を見ても今、ロシア材がダブついています。この状況をどう解釈したらいいのか？一方でロシア材は、足りない、足りないと言われているなか東京埠頭のような事態が出ること、もう一つは永島班長さんが、ちょっと触れましたが、今はロシア・ウクライナショックでも単板の問題や製材品の問題であたふたしていますが、合衆国の今回の住宅ローンの引き上げです。これが相当効いてくるのではないかと思っています。金利も上げましたし、住宅のローンも上げて実際に新設住宅着工件数もちょうと落ち込んできましたし、申請件数もやっば落ち込んできて木材価格も下がり始めています。これが日本の第三次ウッドショックに対してどのような影響を与えるのか？私はそこが一番大事だと思いますが原田社長そこら辺いかがでしょうか。

○原田木材株式会社 原田 代表取締役社長

多分、これからアメリカの住宅着工は、落ち込んでくるのではないかと思います。アメリカも住宅ローンが一番安かった時で確か2.6%ぐらいだと思います。

6月半ばで5.78%だったでしょうか？もうすぐ6%を越えているかもしれません。5月初めの金利5.3%までお金を持っている人たちが今度上がるということで少し駆け込みもあったそうですが、多分今からは、住宅着工も落ちていくのではないかと思います。アメリカは、過度なインフレを抑えるため、わざと不景気にするような金利対策をとっていますので、建設業にとってはものすごく響いてくるのではないかと思います。

聞くところによると、ロシア材も中国経由で入ってきているようです。そんなことをやっていいのか？と言う一部の人がありますが、このまま年末に向けてずっと、だぶつき続けるという事もあるのではと思っています。今後、国内流通では水面下で我慢できなくて顔をあげたところから値段が崩れていくのかなという印象はあります。

○遠藤 座長

確かに言われるように、中国産の針葉樹の構造用合板がだいぶ入っていますので、品質の問題とか色々なことで問題があるのですが、どのように調整していくのか我々はかなり厳しく見守っていく必要があるのではないだろうかと思っております。ありがとうございました。永島班長さん、これでよろしいでしょうか？

○林野庁 永島 課長補佐

ありがとうございます。

○遠藤 座長

次に川中の方々に、現在の生産状況や、原木の確保状況について前回の冬からその違いの部分です。今後の国産材の転換や生産体制が安定供給体制の構築に向けての取り組みについてお考えになっているところがあれば、是非情報を提供していただきたいと思います。

まず、製材からいきたいと思います。

○外山木材株式会社 外山 常務取締役

皆さんもおしゃっている通り、かなりダブついてきたかなと思います。合板の方も色々話が出ていますが、全国的に足りてきている状況です。特に金利上昇の話が先程、原田社長のほうからありましたがこれからの懸念事項かなと思っておりますそれを懸念してか、お客様も在庫を持っているが先行きが見えないということで、かなり無理買いはしないような状況です。

一応、我々製材工場としては正直、価格は下げずにこの単価をちょっとキープしていききたいという気持ちが、おそらく各会社同じだと思います。そういう状況の中でも、やはり皆さん、作りすぎて価格を崩すよりは、やはり値下げをしないように、生産調整をする休日や残業を控えていくという対策を少し取られているように思えます。当社も生産調整に入っているところです。ただ、今のところ造った分は何とか売れている状況で、極端な値下げの話もあまりありません、流通のお客様によっては、やはりちょっと下げないと買えないというところが出てきています。そういう所にはちょっと正直出さないようにしています。

いつものお客さんで1000円とかそういう話があった場合は応じる事もありますけれど、基本的に価格の下げは、応じておりません。製材工場としては、今まで苦難の時代を渡ってきましたので、ちょっと高すぎるのではないかという話をいただいた矢先で申し訳ないですが、3年間はこの価格をキープしていききたいと当社としては考えております。

都城の方は丸太の方も、一部柱どりなども2万円を超えている状況です。四国では丸太が安いというような話も聞いていますので、KD材の価格も全国的にちょっとバランスが崩れてきたかなというのがあります。

しかしながら、九州はある程度単価を崩さず横ばいで行けているので製材工場としては必要以上の値下げはせず、生産で調整していきたいと思っています。

○遠藤 座長

ありがとうございました。木脇産業の山下専務さん、お願いします。

○木脇産業株式会社 山下 専務取締役

当社は、宮崎・鹿児島を中心とした地場のハウスメーカーにプレカットを通じて製品を送っております。元々そんなに外材を使う地域ではなく、良くも悪くも、あまり外材の影響は受けていません。取引先のハウスメーカーの営業マンと話したところ、4月・5月・6月は天候の関係で少し落ちましたが、プレカットは土曜日休むぐらいで後はずっと稼働しています。今年の3月までは大型の牛舎の発注も結構ありました。6月の後半から7月にかけて少し減りましたが、牛舎建て替え等、見積もりも色々増えてきています。外材の影響を受ける地域ではないですから住宅を含めてそんなには落ち込みもなく安定的にこれからも動いているのかなと思っています。

○遠藤 座長

次に、集成材の方から少し情報を頂戴したいと思います。中国木材の日向工場の林工場長さんをお願いします。

○中国木材株式会社 日向工場 林 工場長

集成材の方からお話ししますと、受注は相変わらず好調で生産を続けておりますウッドショックとウクライナの問題もあり、ハウスメーカーやビルダーが外材から安心できる国産材への切り替えが進んだことによる国産材化の取引が影響しているという風に思います。これは集成材以外の羽柄材を含めて野縁とか、ハウスメーカーの標準仕様に国産材が入るきっかけになったということでは、良い状態ではあるかと思えます。

ただ、先程から話に出ていますように現在、日本国内のプレカット工場の稼働は平均すると、対で80から90%前年比です。非常に受注が厳しい環境になりつつあります。受注残も少ないということの中で先程、原田社長がおっしゃったように製品在庫は過多の状態です。プレカット工場間の価格競争の激化が始まっております。自社のプレカット工場の仕事をある程度埋めるために、また持っている在庫を捌くために新規に営業をかける、既存でやっていたプレカット工場もやはり昨年のウッドショック以降、価格をどんどん上げていますので、不信感を持たれているビルダーや工務店は、営業時にすぐ見積もりを出すとか、お互いのマッチングがうまくいって新規を取った、取られたみたいな話も、我々の所には入ってきております。

また、ハウスメーカーの受注状況も非常に厳しいという環境の中で、欧州材の第3クォーターの製品やラミナのオファーがありました。各プレカット工場や商社の在庫が多く、なかなか契約に至らない中でこの製品価格が下がってくるのと、我々が広島と鹿島で作っている米松も、価格のずれが生じそうな感じがしています。

米松は、5月から8月に製材するものが今まで過去最高の高い丸太ということになります。これは、船運賃とか原油とか全て含んでですが、製材屋の原木としては過去最高の金額になっています。我々が米松製品を造るのは、夏から秋にかけて出てくるものが一番コストのかかっている状況の中でレッドウッドが下がっていくという、そして仕事が減っていくということを考えますと、今携わっている国産材も、少なからず厳しい環境に陥っていくのではないかと懸念はしております。

○遠藤 座長

貴重な情報をありがとうございました。集成材の方から、もうひとつ、吉田産業の吉田社長さんをお願いします。集成材の立場から今の状況どう思われますか。

○吉田産業株式会社 吉田 代表取締役社長（ウッドエナジー協同組合 代表理事）

中国木材さんがお話しされたことと、全く同意です。弊社の方も、僅かばかりの杉の管柱を増産しているようなところで、そういう意味では次の製材はちょっと忙しいなあという風に感じております。ヨーロッパの方も確かに価格がちょっと下がってくる感じもあるなあという流れで見えています。ロシアについては、一時的にダブつくのは、これはもう、しょうがない話であって輸入禁止という形の経済制裁が働いて来るでしょうから、この年末までのダブつき状況をどういう風にみんな乗り切って、来年の見通しを立てるのかなあという気がします

○遠藤 座長

ロシア材のダブつきについて先程も話題になりましたがどうしてなのでしょう

○吉田産業株式会社 吉田 代表取締役社長（ウッドエナジー協同組合 代表理事）

経済制裁前の契約分が今入ってきている状況の中で、慌てて色々な契約を結んだところも各方面にあるでしょうから、それが怒涛のように年末までに入ってくる。あるいは入ってきているというのが、国産材工場からすると、非常にどのようになるのかという不安に駆られてしまいます。そこで気持ちが弱くなり、値段をちょっと下げて売らないといけないのかという様になってしまふところから崩れていく可能性はあると思いますけども。

○遠藤 座長

次に合板分野から新栄合板工業(株)前田生産部次長に話を聞きたいと思いますが、水俣それから大分二つの工場ではロシア産のカラ松単板をフェイスバックには使っていないのでそれほど影響はないと思いますが、合板の今の状況を情報提供していただけますか。

○新栄合板工業株式会社 前田 生産部次長

原木の集材につきましては出材が良く、チャイナ向けの輸出が落ち着いていることもあって、集材は順調に行っております。今後、梅雨入りにかけてまして雨の影響が出てくるかと思っておりますので出材量は減ってくると思われまます。市況を注視しながら集材の方に努めています。合板の販売につきましては今のところ順調に販売されております。生産もフル生産が続いております。その中で、九州においては、本州ほどひっ迫感は少ないと見ております。

今後資材の高騰から住宅の買い控えが起きるのではないかという心配があります。

九州の木造住宅は昨年比、今現在、トントンで推移しております。昨年は5月以降の住宅着工が思ったほど落ち込まなかったのが良かったのですが、今年は落ち込んでくるのが予想されます。合板の販売も今後、落ち着いてくるかと思われまます。その中、今年の1月から4月の合板生産量は前年比、国内生産量はほぼトントンです。合板の輸入量は全国で11.9%増えており、合板不足から全国の輸入量が増えておりますが、九州においてはマイナス12.7%と大幅に減っております。九州には合板に対するひっ迫感は少ないことを意味していると思われまます。ロシア単板の輸入禁止に関しましては、遠藤先生からお話があった通り、水俣工場、大分工場の方では使用しておりません。ただ使用してました合板工場に関しましては、生産量に大きく影響しております。国内生産量統計も5月以降、減ってくるかと思われまます。

中国産合板の輸入量が増えています。これに関しては輸入禁止になっているロシア単板を使用され、中国で合板が生産されて、国内に入荷されています。ただ、厚みむら接着性能が劣っているという話も多いので、注意していただきたい今後、国内の合板メーカー販売に影響が出なければ良いと感じています。

○遠藤 座長

中国産の針葉樹の構造用合板に2300円という情報も入っていますが、そうですか。

○新栄合板工業株式会社 前田 生産部次長

今、現在2300円で販売されていますが、やはり九州では売れてないようです。そのような状況で今、現在は2000円ほどに値下げしているという話も聞いております。

○遠藤 座長

貴重な情報ありがとうございました。

次に商品流通に行きたいと思っております。肥後木材の佐藤社長お願いします。

○肥後木材株式会社 佐藤 代表取締役

製材品の流通につきましては、今までに出た情報がありましたように、プレカットの受注状況があまりよろしくありません。製品の動きは鈍い状況が続いております。

その中で少し変化があるとしたら、弊社の場合は九州内がほとんどの商売の範囲ですが、本州からの製品の引き合いが、少し増えてきており、これは外材の今後の不安と言いますか、在庫は今あるが、長い目で見た時に国産材へのシフトを検討したいと言うような会社もごございます。そういった動きもございました。今の国産材支援転換事業の運転補助とかもあるのです。そういったものもできれば使い、九州材を可能な範囲で本州の方にも拡販していきたいと考えているところです。

○遠藤 座長

伊万里木材市場の吉村さんお願いします。

○株式会社伊万里木材市場 経営管理部 吉村氏

本日は弊社の林が所要の為、参加できませんので代行で出させて頂いております。製品流通に関しては、弊社も原木と製品の両方を取り扱わせて頂いており、特色としては建設のプレカット課がごございます。そのような面についてお話しさせていただければと思います。製品の入り具合は平年通りで、お客様方の購入も弊社の場合は地元への販売がほとんどです。変わらぬお取引をいただいております。

また特色のある活動としては弊社の本社があります佐賀県において積極的に設計士に対し中大規模の建築セミナー開催や地域内の木材流通の協議会の設立などに力を入れておられますので公共物件に対して、地元産の丸太を最終的な製材品にして、販売するという窓口を一本化した販売の方法が徐々に増えてきております。

ネックとしては、佐賀県また北部九州においてはなかなか JAS 製材品の作れる工場さんがあまりないということもあって、一部はやはり JAS 製材品の作れる熊本であるとか他の地域に流れているとか一度出さないといけないうところもごございます。この様な面で、製品の方に関しては段々と業者さん側から色々な要望が出るなど、そういういい面も出てきているのではないかと考えております。

また別件ですが、最近、弊社の土場の選別機改修等も進んでおりますが、かなり工事業者や設備を入れる機械屋とかが、選別機や電気部品などの確保がしにくくなっており、予定より設備の導入が遅れている面もありますのでこのような点も昨今の情勢の影響とされているところがございます。製品流通に関しては以上となります。

○遠藤 座長

ありがとうございました。

それでは、次に製紙パルプから情報提供頂きたいと思っております。中越パルプ工業 原田原燃部長さんお願いします。

○中越パルプ工業株式会社 原田 原燃料部長

製紙パルプにつきましては、物の動き自体について国内はそれほどなく、輸出の方も比較的順調となっております。価格についても一部製品価格に転嫁している部分もありますが、それ以上にチップの方が高騰し続けているということです。

針葉樹につきましては、国産材を最大限に使っておりますが、一部米国産のダグラスファーも使用しております。そちらの方はまだまだ上がり続けているといったところで、当然需給もそうとうひっ迫しているというような状況となっております。それに加えてロシア産のチップがあります。私どもの工場では使っていないのですが、全国的に一部ですけれどもロシアから輸入していた分をストップしたというこ

とで、これに代わる材を各メーカーは調達しないといけないということもあり、そちらもひっ迫の度合いをさらに強めているというように思われます。

そういった中で、我々も国産材をさらに使用していきたいというように思っておりますが、低質材についてはまだまだ出材は鈍いというように感じています。

今後こういった形で調達をやっていくかが今後に向けて課題が残っていると思います。

○遠藤 座長

一つ質問させてください。冒頭に林野庁の永島班長さんからお話がありましたが上海の常熟と太倉を含む3港でロックアウトがありました。九州内のC材がダブっていたという情報も入ってきておりますが、これは製品業界に対してどういう影響を与えているのでしょうか。

○中越パルプ工業株式会社 原田 原燃料部長

私どもはまだダブつき感は正直なく、先ほど原木輸出も若干鈍っているという話もありましたが、そういった中でもまだ在庫を積んででも、輸出向けに調達しているところとか、まだまだ輸出向けも盛んに行われているという認識でおります。

競合ではありませんが、そのようなところがあり、なかなか製紙パルプ向けに原木が入りづらいのではないかと考えております。

○遠藤 座長

ありがとうございました。

次に木質バイオマス発電から話を賜りたいと思います。

○株式会社グリーン発電大分 水田 管理部長

今、発電所で一番問題になっているのは未利用材の集材ですが、去年のウッドショックの時期にかなり厳しい状況がありました。当発電所には協議会という組織があり、協議会を通しての搬入になる為、常に協議会へ足を運んで情報の収集、山の状況、市場の状況等を見ながら収集に努めてまいりました。

その中で今回、また今年も昨年と同じようなウッドショックが来るのではないかとこの情報も昨年末から入っておりましたので、これは困ったということで色々やっておりました。市場の価格は、側に森林組合の共販所が有り市売り状況をみても、昨年のような高騰ではありませんでした。材価としては一般的に杉であれば14000円から13000円で今現在は12000円台に推移しており、安心しております。

そのような中で、ロシアの戦争の問題があり、東日本での木材供給が少し厳しくなるのではないかとこのことで西日本の方はかなり手が伸びてくるという話もありました。状況を見ながらやってきましたが、今現在、順調に搬入を頂いており、集材の確保が出来ているということです。

ただ、今後どのように情勢が変わっていくか分かりませんので、常に毎日のように情報を収集しながら在庫の確保に努めていかなければならないと思っています。

去年はグループ全体で約2万トンの在庫がありましたが、去年のウッドショックでほぼ使い果たしてしまいました。だからまた今年ウッドショックが来ればちょっと厳しいかなということで、慎重に情報収集につとめてきておりますが、本当にありがたいことに今のところは順調に搬入頂いております。

○遠藤 座長

以上、川中から製材、集成材、合板、製品流通、製紙、バイオとそれぞれ貴重な情報を頂きました。ありがとうございます。

今日は九州各県行政からもこのWEB会議に参画していただいておりますので各県からご意見又はこれまでの発言に対する質問等ありましたらどうぞご遠慮なくご発言されてください。

今の川中の話を聞き、私なりに考えたことですが、ウクライナ侵攻による木材需給状況への影響は足元ではみられないものの、一方でダブつきという話もありました。今後、輸入木材の在庫の変動やコンテナの状況、情勢の変化を考える中で原木の入手や国産材への需要増の対応など、こういった形で各所に影響が表れているかまだまだ不透明な状況が続かざるを得ないような状況だと思います。

川上から県森連の方にお話を伺いたいと思います。

○福岡県森林組合連合会 諏訪田 事業課長

福岡の市場の話になりますが、グリーン発電大分さんが発言されたように、そこまでは今年に入ってから大きな動きがないというところが現状ではないかと思えます。

出量と価格が安定している状況がずっと続いているという感じを受けております。

ウッドショックがもう1回来るのでないかという話も聞いておりましたが、そこまで大きな動きもなく年明け1月頃からずっと続いて単価等も推移しているような状況であります。

今後、九州地区は梅雨に入りましたので、ちょっと出材等が落ちてきて虫とかの関係で値が下がるかもしれないというように思っているところです。

情報収集しながら、このあとロシアの事が気になりますが、状況を注視しながら進めていきたいと思っています。

○遠藤 座長

長崎県森連の事業部の小川事業部次長さんお願いします。

○長崎県森林組合連合会 小川 事業部次長

長崎県森連につきましては、共販事業そのものをやっておられませんので価格動向等については他の県森連さんや伊万里木材市場さん等、九州北部地区のそのような事業をされているところの方が私どもより掴んでおられるのではないかと思います。

我々、長崎県森林組合連合会は会員系統材の出材を取りまとめて各所に販売をさせて頂いておりますが、会員は森林整備事業における搬出間伐を主に行っている事もあり、ウッドショックだからといって、ものすごく生産量を増やすなど、量の部分については特に影響はありません。ただ価格的には一時期の高騰からちょっと落ち着いた状況の中での高止まりということです。それは燃料や資材高騰の影響下において大変ありがたい状況であると考えているところです。

一方、冬の時期から春にかけて比較的天候も良く、雪も少なかったということもあり西日本地区の出材が遠隔地に運んでいるお取引先につきましても結構近隣から入ってきているという話もあり、供給量がいっぱいになってきているという話も耳に入ってきております。

ここ最近、会員組合は、好調に出材をされておられますが、今後、出材が止まるような方向にならないか逆に心配をしているところです。

その一方、これから梅雨時期に入り、夏場にかけて昨年、一昨年と豪雨で山が止まることもありましたので、原木供給がどういう形に北部九州がなっていくのかというところは注視していきたいというように考えているところです。

○遠藤 座長

それでは次に生産分野から発言を頂きたいのですが、鹿児島県の素材生産事業協同組合連合会の神園事務局長さんをお願いします。

○鹿児島県素材生産事業協同組合連合会 神園 事務局長

素材生産の方は主伐の面積あたりは県の統計を待たないと掴めないところですが感覚としましては、鹿児島県内の市場の話聞きましてもかなり材が入ったということですが。

特に令和3年度あたりの数字ではかなり主伐の面積は増えたのでないかと考えております。いわゆる木材不足で国産材へ色々な業界でシフトが進んでいるということで川上としましては国産材の安定供給に向けて今活動しているところです。特に主伐再造林がかなり遅れており再造林放棄の問題に対しては、もう全国的に活動していかないといけないというところであり、川中川下の業界の皆様にもぜひご理解とご協力をお願いしたいと考えております。

ちなみに今月の27日東京で伐採搬出再造林ガイドラインサミットを開催いたします。

林野庁さんにも長官はじめご臨席いただきますし、全木連、全森連の会長さんにもご挨拶をお願いしました。東京に集まるということで、できれば全国的な報道にも取材をしていただきたいと思います。間違ったメッセージが、テレビ番組とかでも出たりしたことがあります。今の状況を正しく認識していただいて一番の問題は国産材安定供給に対して主伐が進むことです。

その主伐が再造林なしで進んでいるというところに危機感があります。そのことを特に森林所有者さんには分かって頂きたいです。昨年からのウッドショックの関係で山元立木価格が上がっておりまして国有林の立木公売入札でもかなりの高値が出ております。これは出てきた A材B材とC材の売上収入でまかなえるか心配になるくらいの高値が出ております。

山元立木価格というのは遅れて反映してくるものなのですが、そういったものも収集しながら素材生産の方を進めていく零細業者が多いので、高値が出てくる事は嬉しいわけですが、段々、主伐の山が消えていくということに対して大変な危機感を持っているような状況です。

○遠藤 座長

素材生産からもうお一方、宮崎県の素材生産事業協同組合連合会の田原専務理事さんをお願いします。

○宮崎県造林素材生産事業協同組合連合会 田原 専務理事

宮崎県におきましては、素材生産業者の話聞きますと出材意欲の方は依然高いと聞いております。梅雨入りしましたので、今後の天候次第では量が左右されるのではないかと感じております。

また特に話がでるのが、バイオマス用の原木がひっ迫しているということで、特に宮崎県におきましては来年以降またバイオマス発電所が幾つか稼働し始めると言うこともあり、その原木供給が心配だというような声を聞いております。

もう一つ懸念しているのが機械メーカー等の話をする中で、「高性能林業機械の納期が遅れており、手に入れるということがなかなか難しくなっている」ということを聞いております。フォアードとかについては2年ぐらい待たないと入ってこないのではないかと聞いております。出材意欲が高い中でそういう高性能林業機械が入って来ないということが今度少し足を引っ張ることになりかねないのではないかと懸念しているところです。

木材価格についてはやはりウッドショック以降、高値ということで、だいぶ山元にお金を返すことができるようになりました。ただ、立方あたりの平均価格で最低1万5000円は欲しいと言うような声を素材生産事業者の方から聞いております。

○遠藤 座長

今の1万5000円というのは杉の丸太の平均価格ということでよろしいですか。

○宮崎県造林素材生産事業協同組合連合会 田原 専務理事

そうです。

○遠藤 座長

ありがとうございます。次に国有林に参ります。九州森林管理局の大道森林整備部長さんお願いします。

○九州森林管理局森林整備部 大道 森林整備部長

国有林について、発注は前年度と同じ体制をとり、何時でも安定供給をできるように進めております。

資料の中にも入っておりますが、素材生産販売については、今のところ7割ほど発注が済んでおり淡々と進んでおります。

大きな違いがあるのは立木販売で、去年の立木販売はまさに5月6月7月8月9月までウッドショックの中において2020年度に比べて2021年度は単価で言うと倍くらいで買って頂いており、非常に収入も上がりました。

ただ、10月以降は2021年度も2020年度並みに落ち着いてきたという状況であります。本年度はまだデータ的には5月分のデータしかないのですが、販売する場所で違うので単純な比較は出来ませんが、価格帯とすれば5月は一昨年のレベルの販売単価だったので、去年ほど立木販売で材の手当が必要ということは実際数字でも出て来ませんし、我々のところにも材が足りないという話はあまり聞こえてこないというのが現状です。

ただ、今後在庫の問題があり、どう動くのか分からないというところで注視しながら、状況が変わった時に柔軟に対応できるようにしたいと思います。

○九州森林管理局森林整備部 猪島 地域木材情報分析官

最近データ等を見ても住宅もそれほど芳しくないという中、実需が無い中で価格だけ何故こんなに高くなって、ずっと高止まりするのかと色々疑問でしたが、本日皆さんの話を聞いて何となく分かった感じがします。

また、来週当方も供給調整検討委員会を行う中で、ご議論、ご意見をお伺いして国有林として今後とも参考にさせていただきます。

○遠藤 座長

次に原木市場からお願いします。

○株式会社九州木材市場 田中 代表取締役

原木市場の原木の出材量は各社おおむね一割ほど増加していて安定供給できています。

価格面は徐々に下げながら現在の価格となっております。

○遠藤 座長

次は苗木生産にどういう影響があるかですが、苗木生産については本日欠席のようですので、省略いたします。

統計には出てきていませんが、この春の出材は順調だったようです。九州は梅雨に入ったわけですが、次は夏を迎えるにあたって一旦出材が落ちていくことも予想されます。

それではご発言内容につきまして、意見や質問があれば一括してお話を伺いたいと思いますが、その前に宮崎大学の藤掛先生からはこれまでの総括も含めて思いのたけを述べていただきたいと思います。どうぞよろしく申し上げます。

○宮崎大学農学部 藤掛 教授

お時間をいただきましてありがとうございます。

総括まではできませんが、貴重な情報を皆さんありがとうございます。

特に質問しようと思ったのは、川下のお話を聞いていますと一つは住宅が住宅価格に木材価格等、色々な物の値段が上がってその転嫁されていたりする中で景気もそんなに良くない中で今のところは順調ですが、住宅が今後どうなるのかという部分が一つです。

もう一つは外材のだぶつきという話がありましたが結局、外材が高くなったおかげで国産材が高くなっているだけというところもあると思いますので、外材の価格がどうなるのか、ダブつきがどうなるのかというところが大きなところと思いました。

九州内ではもともと国産材も多く、それほど以前と変わらず順調に行っているというように、全体の話として聞きました。価格だけは外材に引っ張られて高いことが続いており、今後どうなるか。住宅が建たなくなり、国産材もだぶつき始めると落ちていくと思います。あるいは外材の価格が落ちていけば国産材の価格も落ちていくということになるのかと思っております。その二点が特に気になっておりました。

その中で伺いたいのは、外材価格が今後どうなるかに関してです。

ヨーロッパやアメリカで、もし材が余って輸出がしやすい状況になりダブついて価格が第3クォーター第4クォーター落ちていくのではないかという話もありましたが需給状況とは別に、まず一つはコンテナの価格は林野庁さんからの資料もあったように非常に高い状態が続いていること、輸入材の価格はそうなると高いままになるのではないかということと、円安の影響が今後どのように出てきて輸入材の価格が高いままになるのかというところが気になっています。

原田木材さんや中国木材の林さんから先ほど輸入材のお話しをさせていただいたのですが、その辺りコンテナや円安のことを考えると価格は高いままになるのかという気もしますが、落ちていく方向性との兼ね合いはどうか。具体的には円安はいつぐらいから価格に反映されていくのかその辺り教えていただければありがたいです。よろしく申し上げます。

○遠藤 座長

原田さん 今のご質問に対するお応えをお願いします。

○原田木材株式会社 原田 代表取締役社長

ヨーロッパ材に関しては、基本的に丸太は前からあまり上がってなかったと思います。ですから円安でもありますが、需要と供給のバランス、例えばヨーロッパの製材所の話を知ると売上の半分が利益だと言うようなこの一年を続けたと思いますちょっと言い過ぎかもしれませんが、円安の影響もあり、本人たちが持っているダブついた在庫を為替に関係なく、捌かなければならないということです。対日向けではある程度買ってくれる金額を出し続けていくのではないかと私は思っております。米材については分かりませんので中国木材さんにお聞きになってください。

○遠藤 座長

中国木材日向工場の林工場長さん、今のご質問に対するお答えをお願いしますか。

○中国木材株式会社 日向工場 林 工場長

まずヨーロッパの方です。我々が持っている第3クォーターのオファーの中の話では世界的にインフレが進んでいます、その中でもバルト地域ではガソリン代が2倍、電気代が3倍というような状況です。ロシアからパルプ用の輸入が止まっているということで欧州地域ではある程度木材の伐採はしないといけないということです。パルプ用材と同時に集成材のラミナも出てくるということです。その行き先が問題になります。今まではアメリカが非常に好調で高い価格で取っていました。アメリカの価格ももうダダ下がりしておりますので、行き場を失ったものが日本に行くしかないという状況の中で、ヨーロッパ材の価格が下がっていくという流れだという認識をしております。皆、在庫が過多の状態ですのでそれを全部買えないという中でますます価格が下がるということかと思えます。

為替の決まるとき、それぞれ違うと思いますが、契約するときの為替で決まるケースも多いと思えますし、ドルを持っているところでは状況を見ながら契約時にタイミングをはかるケースもあるかと思えますが、少なからずずっと円安が続いていますのでそれがもう反映されたものが入ってきているというように理解されていいかと思えます。

○遠藤 座長

これまで各業種の需給動向についてお聞きしました。いわゆるウッドショックの影響で木材価格の高止まり状況に加えて今度のロシア、ウクライナショックによる単板等の輸入禁止、それに対して日本側で同じ品目の輸入禁止、それから燃料高騰円安などと言われている中で不安定要素が非常に多くて皆様も不安を抱えていることだと思えます。

こうした状況の中、国産材の需要が高まっている中で建築用木材の国産材の転換を進めるべく林野庁では総合緊急対策の中で国産材転換支援緊急対策事業を通知したところです。

私も非常に注目しています。40億円の予算がついていると思えますけどもこの辺について林野庁の方からご説明頂けませんでしょうか。

○林野庁 永島 課長補佐

資料5～8説明

○遠藤 座長

ありがとうございます。ご苦勞様です。林野庁から資料5、6、7、8についてご説明がございましたが、これに関してご質問ありますでしょうか。

非常に大事で重要な支援策ですので、ご質問が有りましたらどうぞ。

それでは、今までの情報提供、意見交換、質疑応答も含めて全体的で何かご意見ご質問等がございましたらご発言をお願い致します。

本日は九州各県からもご参加になっておりますが、よろしいですか。

県の行政について大事なことがあると思えますがよろしいですか。

○宮崎県環境森林部 山村・木材振興課 廣末 主査

県の需給会議で話が出ましたが、最近、非常にバイオマスの入手が困難になっているという話であります。輸出がだぶついた時には結構バイオマスに流れるので確保できると思っていましたが、全然流れてこないということで、おそらく市場の方に材が流れて製品等に置き換わっているのではないかと、若しくは、合板等に置き換わっているのではないかと話がありましたが、もし今の原木輸出の状況等ご存じでしたら、情報提供いただきたいと思います。

○遠藤 座長

今のご質問ですが、九州内部で考えるとどうなっているのかということですが、全国で考えたほうが良いと思います。

宮崎県の細島港からも大分県の佐伯からも大分港からも宮城県の石巻や石川県の七尾港にC材、B材が流れています。ですから国産材丸太の8割を占める九州だけで考えてみるとどうなっているかわからないので、北海道は別としても日本全体で特に東北の合板メーカーとの兼ね合いの中で需給動向を考えていく必要があるのではないのでしょうか、その中でバイオマスがどう位置付けられるのかという話になってくると私は思います。

そのような状況を踏まえて輸出の動きの情報を頂きたいと思います。

○遠藤 座長

住友林業フォレストサービスの九州事業部の川畑所長さんお願いします。

○住友林業フォレストサービス株式会社 九州事業部 川畑 九州営業所長

それでは、輸出の状況についてお伝えします。

上海がロックダウンして特に4月を中心に非常に中国側の港の在庫は溢れかえっていたという状況です。6月に入って徐々に中国国内で出荷はされて、減っては来ていますが、まだ値段的には安い状況です。今年、年明け早々ぐらいは160ドルほどで売り買いされていた状況が、直近6月上旬では145ドル以下ということで15ドルは安い状況となっています。私らが把握している他社含め輸出材の日本側港集荷単価はおそらく1月ぐらいは1万円を超えるぐらいで輸出材C材を集荷していました。ここに来て500円～1000円ぐらい値段を下げて9500円前後で集めており、商社の方はそのような形で少し単価は下げて集めていますが、現状では中国側の値下げ要望に対して、日本側ではそのままの値下げ反映とはしておらず商社の方が赤字をかぶっているという状況です。

そこまでして輸出を続ける理由、なぜ止めないかと言いますとそれぞれの商社さんの今後の状況予想に差はありますが、7月なのか8月以降なのか、はおそらくまた中国側も一気に回復してきて国産材を消費し始めるだろう、そういう思惑でまだ集めている状況です。5月、6月は輸出している商社がかなり赤字を被っておりますが、そこは商社が踏ん張って引き続き輸出材を使っていきたい、輸出していききたいという動きだと思います。

○遠藤 座長

ありがとうございます。その他はございませんか。永島班長さんどうぞ。

○林野庁 永島 課長補佐

お伺いしたかったのは加工分野で具体的に外材が国産材に代ったことで例えば羽柄とか野縁が標準仕様に入った等の話や杉の管柱の増産をしていくという話がありましたが、使い心地などは聞けないとは思いますが、使った反応はどうだったのかまた今後、継続して需要がありそうか、林野庁は外材を国産材に変えていきたいというところがありますので、雰囲気やどのような反応があったかをお伺いしたいです。

○遠藤 座長

中国木材日向工場 林工場長さんお願いします。

○中国木材株式会社 日向工場 林 工場長

お客様の反応については、集成材を作り始めた頃は国産材で色々と品質で苦労する面はありましたが、様々な工夫をしながら、現在では海外の集成の柱と遜色ないレベルということで、普通の日本国内のお客様にハウスメーカーさん以外にも販売しております。現場は一切クレームというものありませんし、外材と遜色ないという使い心地で使って頂いているというように認識しています。

ただ羽柄材に関しては一部柔らかいとか、少し曲がりや、色が、という部分に関してはまだまだ浸透に時間がかかると思いますが、それは昔からエリア的に白い木が好きなエリアがあったりする中で、我々含めて国産材メーカーの方々と一緒に広めていくことで変わっていくのではないかと考えています。

○遠藤 座長

どうもありがとうございました。吉田社長いかがでしょうか。

○吉田産業株式会社 吉田 代表取締役社長（ウッドエナジー協同組合 代表理事）
ご質問内容をもう一度お願いします。

○林野庁 永島課長

杉の管柱などを増産されていると言うことで、これまで外材を使っていたところからの受注があり、増産されているのかと思いますが、そういったところに新しく使ってもらえるようになってその反応であるとか、今後も使って行きたいというような継続的に使って行くような雰囲気があるのかなど、教えて欲しいです。

○吉田産業株式会社 吉田 代表取締役社長（ウッドエナジー協同組合 代表理事）
生産規模が小さい会社なので大した供給量ではありませんが、やはり今回のウッドショックによって、供給量を増やして欲しい、切り替えたいというような話ですが、ラミナのことから転換そして人工乾燥、生産も含めてなかなか、そう増産できる話ではないので我々もお客様側の事情を実際のところ全部お付き合いして聞いているわけではないです。

中国木材(株)さんがおっしゃったように安定したものを作れていると言う実績を踏まえて、こちらの方に少し来て頂いているのではないかという感じがします。

○遠藤 座長

ありがとうございました。

所定の時刻が押し迫ってきましたので、最後に座長として感想をお話しして事務局にマイクをお返ししたいと思います。

本日、令和4年度第1回目の需給情報交換会でしたが、非常に勉強になりました。九州の国産材業界はもう舞い上がっています。これが適正価格であると豪語する方もいらっしゃいますが、今日の意見交換を聞いておまして、油断はできないぞ、我々はもっともっと警戒心を高めないといけないというのを強く感じました。欧米が金利を上げ始めたのに日本はまだまだ低金利で、この格差はおそらく円安をもっともっと増幅させてきて、私は個人的には150円ぐらいまで行くと思います。そうすると今の製材品価格、丸太価格は今の状況で高値止まり、推移すると思われるが、これはアメリカ合衆国の住宅事情はどうなっていくのかで金融業界でいう、「往って来い」で、元の木阿弥に戻る危険性もなきにしもあらずだと思います。この辺の警戒感を持っておかないと、只々価格が上がったから嬉しいだけではかなり厳しいと思います。

また九州の製材の特徴は杉の無垢の製材が基本ですので今後、例えば先ほどの野縁とか胴縁がLVLに代わる、或いは装備品がスチールに代るという結核のところの需給がひっ迫すると代替材が出てくるのは今までの歴史が明らかにしているところで

あり、私たちは一層の警戒感を持って一万が一のことをよくよく考えながら、それを視野に入れながら九州の森林林業木材産業の方向性を今こそ議論すべきではないでしょうか、そういう意味では本日の議論は非常に参考になったろうと思います
以上、私の簡単な個人の感想です。ご協力ありがとうございました。

○後藤 事務局員

長時間に亘りましてご参加をいただき誠にありがとうございました。
本日、共有されました情報や議論の議事概要につきましては早急に作成をし、皆様にご確認いただいた上で林野庁の Web サイトで公表させていただきます。
これを持ちまして令和4年度第1回九州地区需給情報連絡協議会を終了いたします。

(以上)